

【報道機関 各位】

～ 農業ベンチャー・笑農和 × KDDI ～

スマート農業スタートパックを発売

IoT 遠隔水門開閉装置の導入スムーズに

株式会社 笑農和
KDDI株式会社

前略 日頃より大変、お世話になっております。

さて、富山県滑川市の農業ベンチャー・笑農和（代表取締役 下村豪徳）は、KDDIと連携し、自社が開発し販売を手掛ける水田の遠隔水門開閉装置「Paditch」（パディッチ）の導入をスムーズに行うための導入支援スタートパック「楽笑」（らくしょう）の取り扱いを、9月から開始します。

水門の遠隔開閉など、圃場水位の自動制御を行う「Paditch」の管理ツールとして、スマホやPCを使いますが、装置を導入する農家では、特に年配者など携帯電話を使っている場合が多く、また、大規模農業で、管理する装置（＝水門）が多くなると、小さい画面では使い辛いとの声が寄せられたため、KDDIと連携し、笑農和と最寄りのauショップ滑川で、タブレット（iPad）や防水ケースなど、手軽にスマート農業が始められる一式が、揃うようにしました。

タブレットを笑農和に持参すれば、設定・操作説明を、その場で行うことができるため、「Paditch」導入に手間取らないメリットがあります。

KDDIのベンチャー支援事業「∞LABO」（無限ラボ）の卒業生として、米処（どころ）富山発で水稻農家向けスマート水田サービスを事業化した「Paditch」は、日本海側を中心に、全国で既に400台の導入実績を上げるまでに成長しており、今回、スマート農業導入への敷居を下げることで、今後、さらに普及を進める考えです。

是非、ご紹介賜りたく、お願い申し上げます。

草々

記

件名： 笑農和がKDDIと連携し、スマート農業導入パック「楽笑」を取り扱い開始

日時： 2020年9月より

目的： 笑農和が開発、販売する水稻農家向けのスマート水田サービス「paditch」の導入をスムーズにするため。

経緯： 1) 2016年の取り扱い開始より、「paditch」の導入実績は400台を超えるまでになった。

2) 水田農家が最も作業時間を費やす水管理の省力化を目指す「paditch」は、水田農家に広く浸透し始めている一方で、特に、省力化の必要に迫られている高齢農家は、携帯電話を利用しているケースが多く、また、スマホで管理画面を見て操作するには、画面が小さ過ぎ、タブレットもセット納入してほしいとの声が、多く寄せられるようになりました。

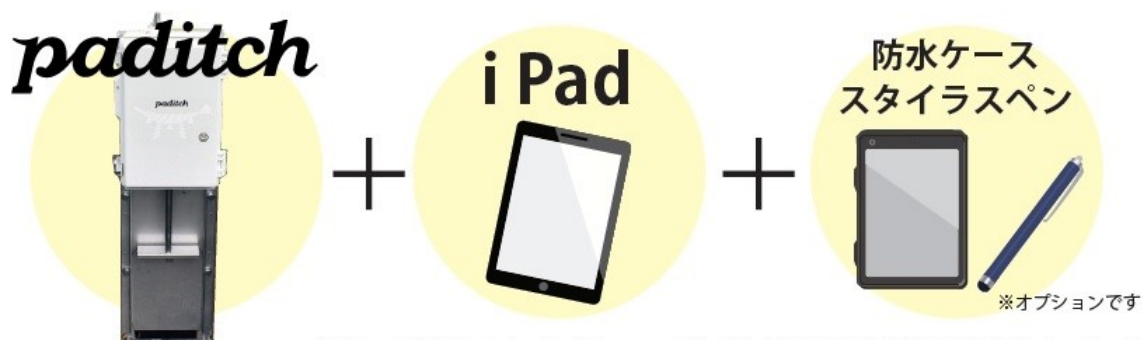
<農家の声>

- ・「Paditch」を導入したがタブレット端末が無い
- ・スマートフォンでは文字が小さく、扱いづらい
- ・複数の装置を管理するは、スマートフォンでは見づらくなってきた



3) 農業ベンチャー笑農和を立ち上げた下村社長は、北陸で唯一、KDD I のベンチャー支援事業「∞LAB0」に採択され、KDD I が事業の立ち上げを支援した経緯があり、今回のスマート農業導入パックの取り扱いに協力することになりました。

導入パック「楽笑」手続きの流れ： 笑農和とKDD I が作成したチラシより抜粋



※TM and ©2020Apple Inc. All rights reserved. iPad は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です



※タブレットの契約名義はお客様となります。

※笑農和（滑川市上小泉 1797-1）と a u ショップ滑川（滑川市上小泉 473）の間は約 700m。歩いて 8 分程の距離です。

※タブレットケースは、防塵、防水タイプで、肩掛けベルトもセットになっています。

お問い合わせ先：

株式会社 笑農和 豊岡 076-482-3998、Mobile 050-1744-6511
KDD I 北陸総支社 坂井 076-261-4077、Mobile 080-5071-9613

<ご参考>

Paditch の機能

- 1) 水門の遠隔開閉 ……田植え後の水管理を遠隔から行う
- 2) タイマー機能 ……水位や時間などで開閉指示が設定できる
- 3) アラート機能 ……畔に穴を空けるモグラやネズミの被害時にアラート通知
- 4) 水位による自動制御
- 5) データ活用による品質向上（食味向上） ……データに基づいた営農指導



富山県内の水田 10 a 当たりの作業時間は、水管理が 12 時間で最も時間を費やしている。

